

郷土を知る



むかしむかし

昔々の

開

そお市

第37回



大昔の交易品

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

発

掘調査で少しずつ地面を掘り下げてみると、キラリと光りかがやく黒曜石製の石器が出土します。数千年前から数万年前のもので、出土の感動とともに、拾い上げるのを一瞬ためらうほどの鋭さを持ち合わせています。

黒曜石は粘度の高い溶岩が急に冷えて固まったもので火山ガラスと呼ばれており、身近にあるガラス製品に近い性格を持っています。たたき割ると、薄くて縁辺の鋭いカケラが得られやすく、日本では旧石器時代・縄文時代に利器の材料として重宝されていました。

活火山の多い日本列島ですが黒曜石が採れる場所は限られており、県内では現在10カ所の原産地が確認されています。黒曜石自体も産地によって個体差があり、石炭のようにまつ黒のものや、濃いあめ色のもの、不純物や気泡を多く含み、割るとバラバラに崩れるものなどがあり、変わったものでは北海道十勝で採れる赤い黒曜石、大分県姫島で採れる灰色の黒曜石もあります。これらの特徴をもとに、産地を追うことも可能です。

曾於市には黒曜石の産地は現時点では発見されていませんが、発掘調査で

各原産地の黒曜石



- ①北海道十勝産
- ②佐賀県腰岳産
- ③長崎県針尾産
- ④大分県姫島産
- ⑤伊佐市上青木産
- ⑥日置市平木場産
- ⑦伊佐市猩々産
- ⑧鹿児島市三船産
- ⑨錦江町長谷産

は他の地域から持ち込まれた黒曜石を素材とした石器類、石器に加工する前の母岩が大量に出土しています。また、まれに遠く離れた大分県や佐賀県の黒曜石を素材にしている石器も出土します。より良い石器素材を求めて、当時の人々の移動や交易、物々交換といっ

た背景がうかがえ、それと同時に文化や技術の流入も想定されます。指先ほどのサイズの石器、ほんのひとかけらの黒曜石から、大昔の曾於市に住んでいたご先祖たちのネットワーケや、他の地域との交易ルートがうっすらうかがえます。